



がんセンターだより

第75号

令和7年9月発行



〒362-0806

埼玉県北足立郡伊奈町大字小室780

電話番号：048-722-1111(代表)

FAX：048-722-1129

HP：<https://www.saitama-pho.jp/saitama-cc/>



基本理念「唯惜命」

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、
先進の医療と博愛・奉仕の精神によって、
がんで苦しむことのない世界をめざします。

発行

埼玉県立がんセンター

発行責任者

病院長 影山幸雄

副病院長就任にあたって



埼玉県立がんセンター
副病院長

八木原 一博

令和7年4月より、
がんセンターの副病
院長を拝命しました八木
原一博です。宜しくお
願いいたします。

私は1991年（平
成3年）に大学卒業後、
日本の口腔外科学の
ルーツとも言える東京
医科歯科大学第一口腔
外科学講座（現・東京

科学大学大学院顎顔面外科学分野）に入局さ
せて頂きました。口腔外科学という学問の中
には、顎骨炎等の炎症、外科的矯正手術の適
応となる顎変形症、生後間もなく手術を要す
る唇顎口蓋裂、顎関節症を主体にした顎関節
疾患、そして腫瘍性病変等、多くの疾患が含
まれます。私は主任教授よりそれらの中から
悪性腫瘍の診断と治療を研究テーマに戴きま
した。懐かしく思います。また、1992年
から2年間、関連病院である埼玉県立がんセ
ンター歯科口腔外科に勤務し、そこから私と
当センターとのお付き合いが始まり、かれこ
れ30年超になります。

その間、口腔がんの診療も目まぐるしい変
遷がありました。画像診断の分野ではCT、
超音波検査に加え、質的診断に優れたMRI
検査や全身スクリーニングに長けたPET/
CTが導入され、原発巣の進展範囲や転移診
断がより向上しました。また、超音波検査ガ
イド下の頸部リンパ節細胞診／生検により、
頸部転移の有無について診断精度が上がり、
不要な頸部リンパ節手術が回避できるよう

なりました。一方、口腔がんの約半数を占
める舌癌の治療について、以前は適応を考
慮しながら病巣に放射線の線源を直接刺入
する組織内照射を行っていましたが、線源
の供給に難があり、2009年より手術を
主体とした治療方針にギアチェンジしまし
た。また、口腔がんに対する薬物療法も、
2000年以降、殺細胞性抗癌剤に加えて
分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤
の登場により、明らかに生存期間が延長し
ています。

口腔がんに限らず、がん診療の中で医師
一人の力は非常に微力です。他の診療科医
師ならびに他科との連携や看護師、薬剤師、
栄養士、技師、医療ソーシャルワーカー、
事務等のメディカルの協力が非常に大き
いと考えます。出会いを大切に、患者様な
らびにご家族の意思を尊重し、他職種の意
見にも耳を傾けながら、安全でクオリティ
の高いがん診療を提供していきたいと思い
ます。

最後に、当センターは本年11月に50
周年を迎えます。歴史ある当センターが埼
玉県民の期待に応えられますように、また
50周年の節目として改めて当センターを
見つめ直しながら、ここまで育てていただ
いた当センターの患者様、そして職員の皆
様に少しでも恩返しが出来ますように、微
力ながら努めさせて頂きたいと思ひます。
これからも、宜しくお願いいたします。



遺伝科 科長兼診療部長就任のご挨拶

令和7年4月1日より遺伝科（旧：腫瘍診断・予防科）の科長兼診療部長に就任いたしました吉田玲子と申します。乳腺外科医として母校である日本医科大学、がん研有明病院、昭和大学（現：昭和医科大学）で14年間乳がん治療に従事した後、遺伝診療に専門性を移し現在に至ります。メスを置き、遺伝の専門家として歩み出した平成28年、本邦でもがん領域でゲノム医療が産声をあげていた時期でした。当時、黎明期であった国内の遺伝性腫瘍診療分野で草分け的な存在であった当院の腫瘍診断・予防科に、遺伝家としてご挨拶と見学に伺ったのもこの度のご縁を感じます。



埼玉県立がんセンター
遺伝科 科長兼診療部長

吉田 玲子

当科は、生殖細胞系列の遺伝子の変化に基づく遺伝性腫瘍症候群の“遺伝診療”、保険収載されているがんゲノムプロファイリング検査の実務とエキスパートパネル運営の“がんゲノム医療”、ISO15189認定を受けている遺伝子検査室での遺伝性疾患や腫瘍組織の“遺伝

子解析”の3本柱を担っています。これらの機能を兼ね備えた病院施設は県内では当科が唯一の診療科です。遺伝性腫瘍診療は、臓器・疾患・症候群横断的な医療であり、時には世代横断的ながん先制医療を提供する診療科で、院内全ての診療科と連携するハブ空港的な存在です。同時に、がんゲノム医療も診療科横断的に関わると共に、がんゲノム医療拠点病院として地域のがん診療施設と連携し実装していくことが求められています。がんのゲノム診断の受け皿として、また遺伝性疾患の疾患発症リスクに対する医学的な介入を発信し先制医療を行う、ゲノム医療の“治療”と“予防”の両輪を動かしていく部門として、医師、看護師、薬剤師、認定遺伝カウンセラー、検査技師、医療事務の多職種スタッフにより運営しております。今後も院内の皆様から信頼されるゲノム医療、遺伝診療の提供を目指し、尽力していく所存です。

埼玉県は関東地域でも発展の一途を辿り、人口は東京都、神奈川県、大阪府、愛知県に次ぐ全国第5位の732万人です。しかし、人口当たりの医師数だけではなく、遺伝診療部門の不足、遺伝診療スタッフの人材不足など遺伝領域でも現時点では未充足である状況です。県内の遺伝診療の仲間を増やし、輪を拡げ、埼玉県のゲノム医療、遺伝診療の拡大発展に、伝統ある当院の遺伝部門として貢献していきたいと思っております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。



遺伝科（がんゲノム・臨床遺伝）の紹介

～ゲノムのある診察室～

皆様こんにちは。遺伝科科長兼診療部長の吉田です。国内の遺伝診療・ゲノム診療の展開と共に、令和7年度より、当科の診療科名が、“腫瘍診断・予防科”から“遺伝科”に変更となりました。改めて当科の紹介をさせて頂きたいと思います。

当科は“遺伝診療”、“がんゲノム医療”、“遺伝子・ゲノム解析”の3本柱を担っています。臓器・疾患・症候群・世代横断的に全ての診療科と連携し、院内および地域の遺伝子・ゲノムに関わる医療のハブ部門として、“遺伝外来”、“がんゲノム外来”の2つの外来を毎日行っています。臨床遺伝専門医2人、臨床遺伝専門歯科医1人、薬剤師1人、認定遺伝カウンセラー2人、看護師1人、検査技師3人の多職種スタッフで運営しています。

“ゲノム情報に基づく適切な医療の提供”

ゲノム情報に基づくがんの層別化医療は、治療（Cure）だけではなく予防（Care）も対象に含まれます。遺伝子・ゲノム解析、遺伝子検査と診断、遺伝カウンセリングをワンストップで行い、ゲノム情報に基づく適切な医療の発信を行います。

遺伝子・ゲノム解析：当科内に解析チームを有し、第三者認定（ISO15189）を取得した遺伝子検査室で遺伝性腫瘍症候群多遺伝子パネル検査や腫瘍組織の遺伝子解析などを行っています。

がんゲノム（CGP）検査：当院はがんゲノム医療拠点病院です。検出された生殖細胞系列所見（疑い含む）の遺伝診療も対応しています。現在当院の連携病院は、埼玉県立小児医療センター、佐久総合医療センター、上尾中央総合病院、春日部市立医療センター、戸田中央総合病院です。CGP検査は“がんゲノム外来”にご紹介ください。

遺伝診療・遺伝カウンセリング：様々な遺伝性腫瘍症候群に対応しています。がんの罹患の有無を問わず、血縁者診断や非腫瘍の表現型をとる一部の遺伝性疾患にも対応しています。“遺伝性”に関する心配のご相談にも応じていますので、“遺伝外来”にご紹介ください。

（例：遺伝性乳がん卵巣がん、リンチ症候群、家族性大腸腺腫症、リ・フラウメニ症候群、PTEN過誤腫症候群、多発性内分泌腫瘍症、神経線維腫症、Peutz-Jeghers症候群、遺伝性びまん性胃がん、Von Hippel-Lindau病、遺伝性平滑筋腫症腎細胞癌症候群 等々）

遺伝子やゲノムのことで相談したい、どんなお部屋なのか見てみたい、遺伝の専門医や資格に興味がある…このような時は、是非当科にご相談ください。

皆様が活用しやすい、開かれた“ゲノムのある診察室”を目指しています。

埼玉県立がんセンター 遺伝科外来
～ゲノムのある診察室～

～当院は最新の遺伝診療科の遺伝・がんゲノム医療の拠点です～
～地域で連携してがんのゲノム医療を行います～

「うちは家族にがんの人が多くて…」
「自分のがんは遺伝性でしょうか？」
「がんゲノム検査は受けられますか？」
このような診療を担っています

【遺伝外来】
日本人は、一生のうち2人に1人以上ががんにかかるといわれています。多くのがんは、発症を要する遺伝子（変異）が原因ですが、一部は、遺伝性疾患に由来し、生まれつきの遺伝子（変異）が原因で発症します。その遺伝性疾患は、がんのリスクを高めるだけでなく、遺伝性疾患の診断や治療に重要な役割を果たします。遺伝性疾患の診断や治療に重要な役割を果たします。遺伝性疾患の診断や治療に重要な役割を果たします。

遺伝性疾患の診断や治療に重要な役割を果たします。遺伝性疾患の診断や治療に重要な役割を果たします。遺伝性疾患の診断や治療に重要な役割を果たします。

遺伝性疾患の診断や治療に重要な役割を果たします。遺伝性疾患の診断や治療に重要な役割を果たします。遺伝性疾患の診断や治療に重要な役割を果たします。

遺伝性疾患の診断や治療に重要な役割を果たします。遺伝性疾患の診断や治療に重要な役割を果たします。遺伝性疾患の診断や治療に重要な役割を果たします。

【がんゲノム外来】
腫瘍の中には、遺伝（ゲノム）変異が原因で発症するものがあります。その変異は、がんのリスクを高めるだけでなく、がんの診断や治療に重要な役割を果たします。がんゲノム外来では、がんの診断や治療に重要な役割を果たします。

がんゲノム外来では、がんの診断や治療に重要な役割を果たします。がんゲノム外来では、がんの診断や治療に重要な役割を果たします。がんゲノム外来では、がんの診断や治療に重要な役割を果たします。

がんゲノム外来では、がんの診断や治療に重要な役割を果たします。がんゲノム外来では、がんの診断や治療に重要な役割を果たします。がんゲノム外来では、がんの診断や治療に重要な役割を果たします。

がんゲノム外来では、がんの診断や治療に重要な役割を果たします。がんゲノム外来では、がんの診断や治療に重要な役割を果たします。がんゲノム外来では、がんの診断や治療に重要な役割を果たします。

がんゲノム外来では、がんの診断や治療に重要な役割を果たします。がんゲノム外来では、がんの診断や治療に重要な役割を果たします。がんゲノム外来では、がんの診断や治療に重要な役割を果たします。



オープンホスピタル 2025 夏を開催しました!

埼玉県立がんセンター開設 50 周年を記念し、一般向けイベント「オープンホスピタル 2025 夏」を開催いたしました。当日は 274 名の皆さまにご参加いただき、盛況のうちに終了することができました。多くの方々のご来場に心より御礼申し上げます。

●準備体制と広報活動

本イベントは、岡副病院長、福山副病院長兼看護部長、野口師長を中心に、短期間での準備となりましたが、各部署委員の皆さまが業務の合間を縫って精力的に取り組まれ、充実した内容を実現することができました。

広報活動では、伊奈町広報誌、LINE、病院 HP、SNS に加え、ニューシャトル駅構内へのポスター掲示など多方面にわたる情報発信を展開し、地域の皆さまに効果的にお知らせすることができました。

イベントの視覚的統一感を演出したのは、プロのデザイナー・斉藤綾一様によるデザインワークです。当センターのシンボル「ハートツリー」をモチーフに、ポスター、パンフレット、スタンプラリー台紙、スタッフ T シャツまで一貫したデザインで制作いただきました。委員の意見を丁寧に汲み取っていただき、親しみやすく温かみのある仕上がりとなりました。

●イベント内容と当日の運営

市民向けミニ講演では、大腸外科の長寄先生と内視鏡科の依田先生にご講演いただき、限られた準備期間にもかかわらず、参加者アンケートで「わかりやすかった」との高い評価をいただきました。

当日は、よろず相談、市民向け救命講習会、栄養コンシェルジュ、口腔ケアアドバイス、健康チェック、ロコモチェック体験の 6 つのブースを設置し、それぞれ 150 名以上の方々にご参加いただきました。

運営においては、看護部をはじめ多くの職員にご協力いただきました。看護師長を中心に、各種ブースの設営・運営から受付・案内、来場者対応まで、膨大な業務を担っていただき、円滑なイベント進行を実現できました。また、診療部門、放射線部、検査部、栄養部、薬剤部、リハビリ部門、事務部門など各領域の連携により、安全で内容の充実したイベントとなりました。

特に、伊奈学園による心温まるミニコンサートと屋外のキッチンカーはご来場の皆さまに大変好評をいただき、イベント全体の賑わいを大いに演出してくださりました。

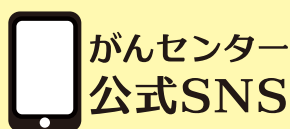


●今後に向けて

今年 10 月にも同様のイベントを開催予定です。今後も地域の皆さまとのつながりを大切にした継続的な取り組みを進めてまいります。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。(文責 小柳広高)

【50 周年記念オープンホスピタル WG メンバー】(敬称略)

岡(副病院長)、福山(副病院長兼看護部長)、野口(HCU 師長)、小柳(リハビリテーション科科长)、中村(9 東病棟師長)、炭野(口腔外科) 杉山(薬剤部)、服部(放射線技術部)、大内(検査技術部)、鈿持(患者サポートセンター)、西澤・小口・河村(事務局)



X(旧Twitter)



YouTube

当センターは「全診療科予約制」「紹介制」です

詳しくは HP の受診案内をご覧ください

予約受付時間 平日の午前 8 時 30 分から午後 5 時まで

電話番号 048-722-3333 (予約専用電話)

